

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「革新的な情報環境の構築」

提出日 2021年8月24日

 長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

 総合企画部長
小野 宏

1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン	長期戦略(テーマ名)	統轄部署
8 学校経営	(8) 革新的な情報環境の構築	総合企画部

内容

<情報化戦略に基づく情報化計画より>

2018年2月に理事会で承認された、将来構想 Kwansei Grand Challenge 2039 では、「革新的な情報環境の構築」が謳われ、「デジタル革命の進展に対応し、ICT活用によって教育・研究・マネジメントの効果・効率を高める、包括的かつ革新的な情報化を推進する。その実現のために、学長の下に2018年度に『情報化戦略本部』ⁱを設置し、学院全体の情報化に関する長期戦略および情報化計画について組織体制の見直しを含めて検討・策定する」となっている。

これに基づき、情報化戦略本部では、情報化戦略及び情報化計画について策定した。政府が掲げる“Society5.0”は、IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、社会の諸課題や困難を克服することを目指している。まさに学院においても、ヒト・モノ・カネに加えて、「情報」が起点となり、教育のあり方、支援サービスのあり方、組織のあり方、仕事のあり方などで様々なイノベーションを起こす必要がある。情報化戦略は、いまや経営戦略そのものである。

情報化戦略の概念は、情報化を司る組織整備と人材育成、情報基盤(インフラ)や利用環境の整備、情報サービスの提供によって学生・生徒・児童・教職員を支援し、将来構想を実現する、という構造である。

現在、学院内のインフラ、システムとも管理・運営が分散されているのは全体戦略との整合、成果の測定、資源の管理、リスク管理(情報漏洩、サイバー攻撃等)、事業継続性の面からも課題が多く、今後は学院としてクラウド環境を利用しながら一元的に管理・運用する体制への移行が必須である。

近年の研究成果により、情報化を推進することが「業務の効率化」「生産性の向上」「支出削減」に結び付くためには、「業務の標準化」が必須条件であることが明らかになっている。固有の業務プロセスごとに情報システムをカスタマイズすれば大幅な費用増となるため、「業務の標準化」にはその前提としての「教育システムの全学的な標準化」が避けられない。

情報化を司る意思決定の仕組みや組織の在り方も抜本的な見直しが必要である。情報化が経営の手段であった時代を経て、情報化戦略が経営戦略そのものになろうとしている中で、組織全体のガバナンスやマネジメントに即して情報システムの企画、開発、管理、運営を行うための組織体制を整える。その際には、外部委託を最大限活用し、それも含めて「責任と権限」を明確にした「ITガバナンス」ⁱⁱを確立する。

また、専門性の高い外部委託業者を的確かつ効率よく活用することも含めて、学院の情報化を総合的に推進する人材には、ITの分野だけでなくマネジメントに関する多様な知識・技能が求められる。そうした人材育成についても従来手法にとらわれない革新的な取り組みが求められる。

【フェーズIのTotal Review】

- ・情報を司る新たな組織が2021年度に設置される。
- ・学生・教職員対象とした新ポータルシステムは、2021年夏の利用開始に向けた構築作業が順調に進んでいる。卒業生等に対しても、2023年度における基幹システムリプレースとあわせて、さらなる検討を行う必要がある。
- ・DX推進により教育、研究、業務、経営を支える機能及び人員体制等の整備が必要である。
- ・ポストコロナを見据えた「教育のデジタル化」に向け、オンライン授業コンテンツ作成環境とそのため体制整備が必要。

【フェーズIIに向けた課題】

- ・DX推進のため新たに超長期ビジョン「DX(デジタル・トランスフォーメーション)」を立て、具体的な計画に落とし込んで計画を推進する。
- ・BYODを前提とした教育インフラ環境の企画・整備
- ・受験生・在学生・卒業生・保護者等をつなぐコミュニティの仕組み強化やデータ分析機能の強化
- ・オンライン授業動画撮影スタジオとサポート体制の整備

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「革新的な情報環境の構築」

提出日 2021年8月24日

 長期戦略テーマの責任者
 (統轄部署)

 総合企画部長
 小野 宏

指標 1

指標	内容					
指標名	情報化を司る組織の整備状況					
定義・算式	新たな組織や体制が整備されたかどうか					
現状値 (指標設定時)	— (2019年度)					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	実現					
実績値	2019年度	実現していない	2022年度		2025年度	
	2020年度	実現	2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

指標 2

指標	内容					
指標名	ICT環境に関する、学生の満足度					
定義・算式	①大学IRコンソーシアムの上級生調査 [問15C]大学の設備・支援制度への満足度：コンピュータの施設や設備(満足、とても満足の割合)					
現状値 (指標設定時)	①67.2%(2017年度)					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
					①75%	
実績値	2019年度	①69.1% ②項目廃止	2022年度		2025年度	
	2020年度	①67.0%	2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

指標 3

指標	内容					
指標名	ICT環境に関する、生徒・児童の満足度					
定義・算式	学校評価アンケートでの満足度(設問のある学校とそうでない学校があるため、今後整理が必要) ※2020年度よりSISの設問が変更					
現状値 (指標設定時)	—					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
実績値	2019年度	高等部(91.2%) SIS(53.0%)	2022年度		2025年度	
	2020年度	高等部(91.7%) SIS(92.0%)	2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「革新的な情報環境の構築」

提出日 2021年8月24日

 長期戦略テーマの責任者
 (統轄部署)

 総合企画部長
 小野 宏

指標 4

指標	内容					
指標名	学生・教員支援：新サービスの実現度・利用率					
定義・算式	①ウェブ上から学生が卒業判定を確認できるようになっているか ②新ポータルサービスの学生の利用率					
現状値 (指標設定時)	—					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	①— ②サービス開始 70%		①実現(2023年度) ②90%(2022年度)		②90%(2027年度)	
実績値	2019年度	①— ②—	2022年度		2025年度	
	2020年度	①— ②—	2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

指標 5

指標	内容					
指標名	基幹システムにおける計画外ダウンタイム					
定義・算式	計画外の基幹システム停止時間 ※基幹システムとは何かを定義する必要あり					
現状値 (指標設定時)	—					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	今後、設定を行う					
実績値	2019年度	—	2022年度		2025年度	
	2020年度	—	2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

指標 6

指標	内容					
指標名	各システム クラウド移行状況					
定義・算式	学内で稼働しているシステムのクラウド環境への移行の度合い					
現状値 (指標設定時)	一部クラウド環境へ移行					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	今後、設定を行う					
実績値	2019年度	—	2022年度		2025年度	
	2020年度	—	2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「革新的な情報環境の構築」

提出日 2021年8月24日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	総合企画部長 小野 宏
-----------------------	----------------

2. 実施計画ロードマップ

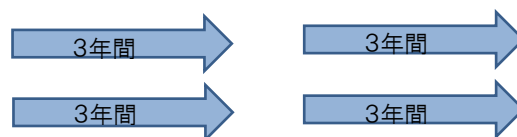
実施計画	担当部署	学部・研究科での取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
① 情報化戦略本部の設置と推進	総合企画部	必要なし									
② 新ポータルシステムの構築<学士1-(10)-⑦から移行>	情報化改革本部	必要なし									
③ (SGU4-3)ポートフォリオの開発(再掲)	高等教育推進センター	必要なし									
④ DX推進のための「IT業務の外部化」	情報化推進機構	必要なし									
⑤		↓学部・研究科での取組みの必要有無を選択ください。									
⑥		↓学部・研究科での取組みの必要有無を選択ください。									
⑦		↓学部・研究科での取組みの必要有無を選択ください。									
【備考欄】											

2021年度帳票提出段階で確定し、かつ概算費用等詳細が見定まりつつある実施計画を記載する。
今後詳細が定まる実施計画については、情報化改革本部にて検討の上、追加修正を行う。

※想定される実施計画の例示

- ① 入学前学修等オンライン教育の導入
- ② 授業外学修や社会人教育等のためのコンテンツ作成
- ③ 「ICTを活用した教育手法」実施に向けた環境の整備
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩

※ロードマップ策定作業用記号



I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「革新的な情報環境の構築」

提出日 2021年8月24日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

総合企画部長
小野 宏

3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計 (2019年度～2027年度)

◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2019年度	2020年度	2021年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2022年度	2023年度	2024年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2025年度	2026年度	2027年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「革新的な情報環境の構築」

提出日 2021年8月24日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

総合企画部長
小野 宏

4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019年度	情報化を司る組織体制については、継続して議論中であり、2020年度上期に答申を提示する予定である。2021年8月、新ポータルシステムのカットオーバー（学生・教職員対象）に向けて、要件定義等を実施した。2020年に具体的な開発作業を進めるため、各学内システム（特に学生システム）との連携を担当する常駐SEの業務委託契約が必要となる。
2020年度	情報化を司る組織として、大学から法人管轄となる情報化推進機構を2021年4月より設置することが認められた。また、新ポータルシステムのカットオーバーに向けた開発等を実施した。また、トータルレビューによる新長期ビジョン「DX」の制定とあわせて、情報化計画（2019-2027）の見直しについても実施した。
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	
2025年度	
2027年度	

ⁱ 情報化戦略本部は、2019年2月21日学院総合企画会議にて、2019年度以降も当面継続することが承認されている。

ⁱⁱ ITガバナンス：企業が、ITに関する企画・導入・運営および活用を行うにあたって、すべての活動、成果および関係者を適正に統制し、目指すべき姿へと導くための仕組みを組織に組み込むこと、または、組み込まれた状態（経済産業省）